

美

少年

始

第九編

一九錄

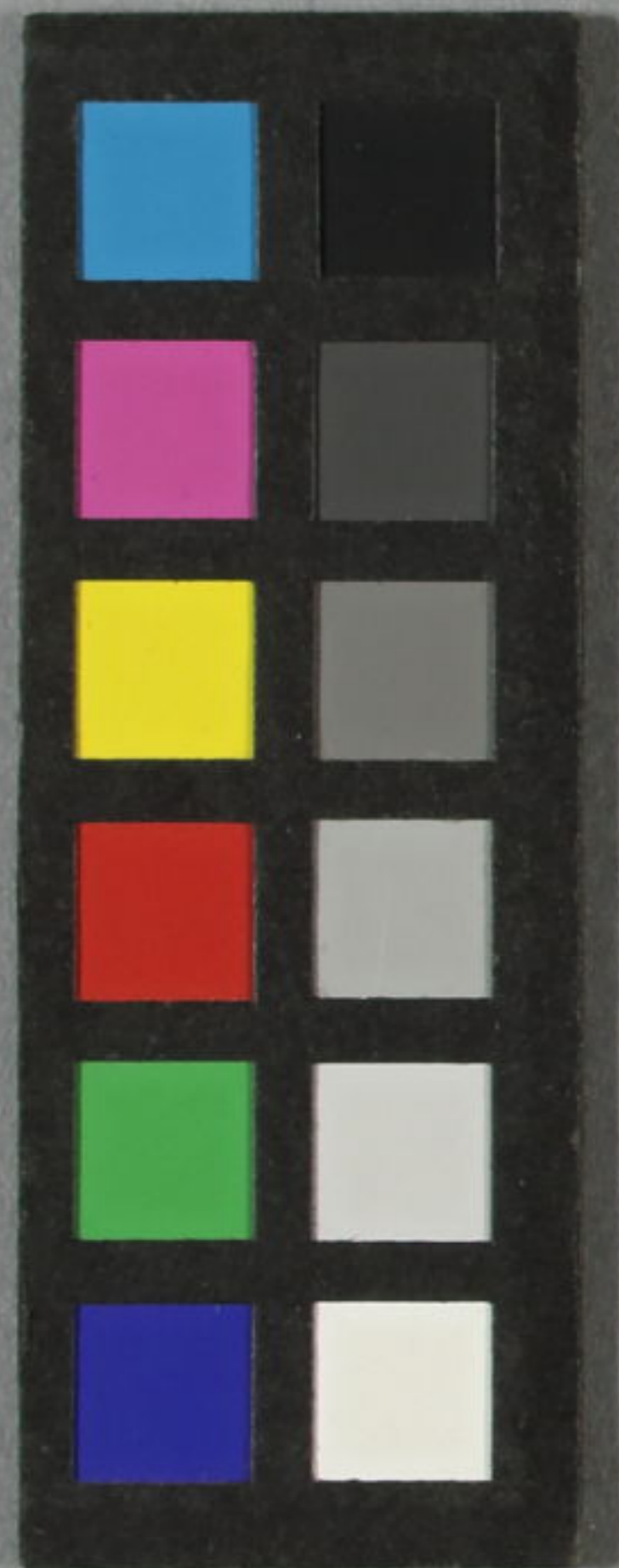
國網画



紅英堂

發行

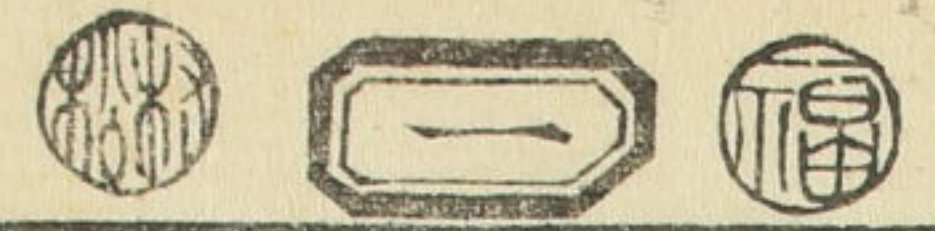
^ 13
3700
5





門へ13
號3700
卷 5

cc



紅英堂
發市

御贄九
編上
美少年始

一九錄
國細画

御贄美少年始第九編目序

勸善懲惡といふ事の那草紙も何れも今爰善惡應報の顛末を
解りし事ありし此草紙も豎横ありて八編より九編に至る
則堅の巻ありて大永五年小渡の茶之夫より七年後ある享祿三年四年の事
あり先綴入るは是横の巻ありて柳元國友矢野宗好ホの悖逆の天罪
ある汝も出て汝もする因果應報を示さん事ありしこれかゝる繪は
書きし欲くても廻らぬ筆の道もどく心京の街の碁局割堅横の自由通
らひより下りし手も極らば定石かゝる本書筋の捨も顔もははやく編九編と
書粘つるも一目置かれしと繋るはけいせりも殺さるるに關しと勞
く劫は元来あや合点で目あり目はの千差万別點か捺とせぬの山と樂屋
明しく黑白のうらゝぬ事とらゝあを行

嘉永六癸丑年正月

十返舎一九

印九百七

尾崎の城主右馬今尹賢ハ香西元盛と謀滅して竊死心をかゝるの
 矢野宗好ガ密議を知りしを後産の思ひ竊毒を餌とせしと宗好早
 くこれとあり丹波の八上ハ赴きて波多備前守植通ハ尹賢ハ隱慮の願未元盛
 謀死の秘事と遺るゝと告ぐ種通とていんを弟柳本國友ハ絆云
 るを尹賢ハ兄の敵とて勿論入道殿ハ浅く不談言せしめられ兄を討せしといん
 られしを某友の旗揚とてかゝり知らるゝと國友ハかゝりて阿波の二好ハ味ハ持前
 勢ハ張るゝ京師の騷動大なる程三好筑前守元長ハ植通國友ハ返忠ハ時を
 えて阿波さのれの大軍と引卒ハ京師とて攻めおし道永禪門ハ高國ハ小
 ざかの近江路ハおし三好元長上洛と威勢盛るゝ國友ハ此てふべき管領右
 京大夫晴元ハ既進しとて逆威とありひハ享祿三年六月晦日ハ小寺の
 依藤と攻ける陣中とて何のいふともなきに彦彦をわかれて亡ぶる是れ
 矢野宗好ガつごうとていふのありしを兄の植通とていふ
 てゆふハ宗好とらちとらち実ハさんげんたることをとて又高國

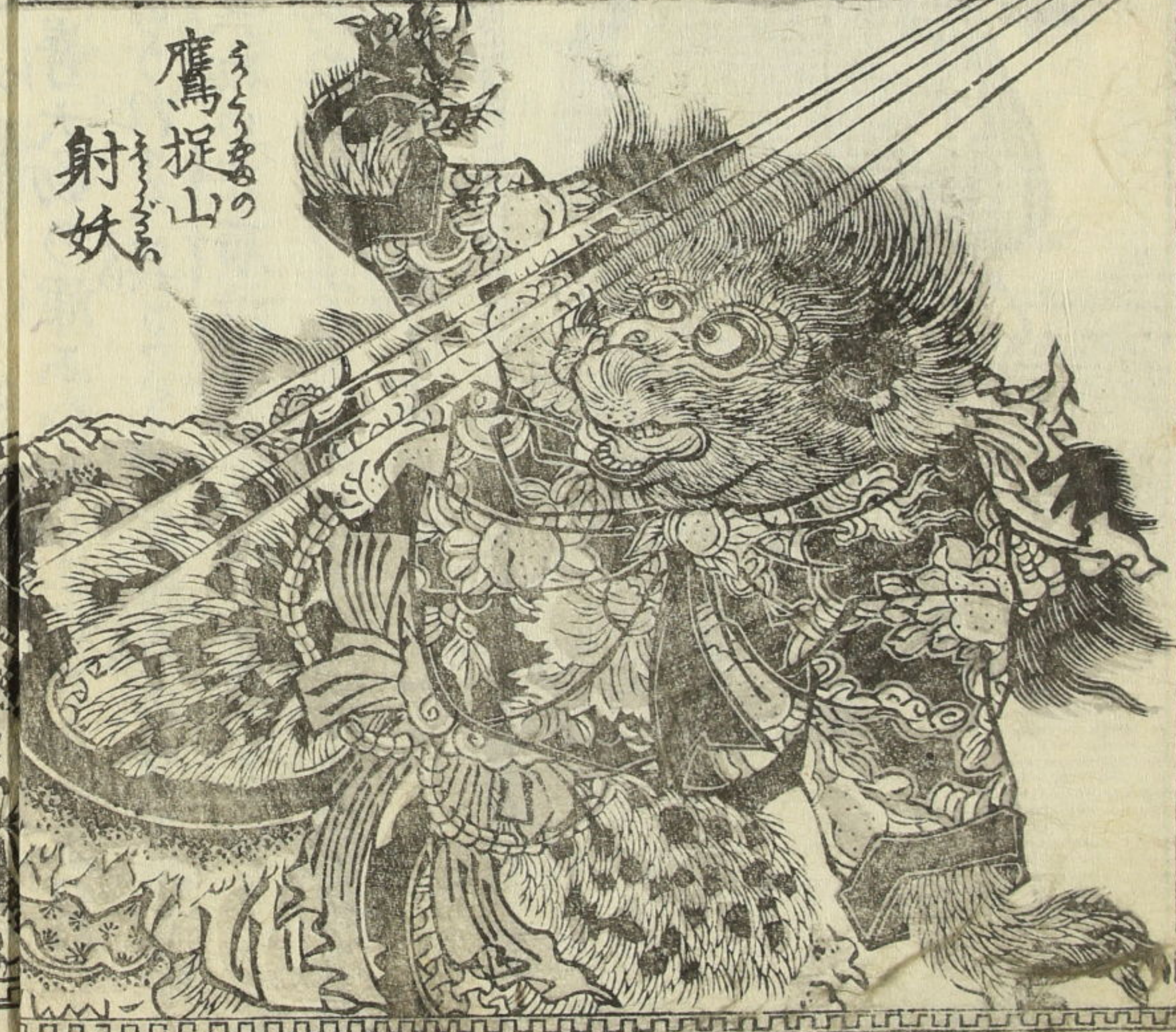
入道ハ享祿四年六月四日尾崎大物の浦ハかいて三好ガとめふつひ
 尹賢ハうくれしと辛くのうれし其のうらうら紺襦のしふわかれ
 と敵の雜兵ハさぶとされて大物の庄廣徳寺ハかいてつあをせとせ
 らるこれとせふ侍て大物とれとどりのある高國といひ尹賢宗好ガ
 終る所天理の昭々たるをて勸懲の一端とてあること



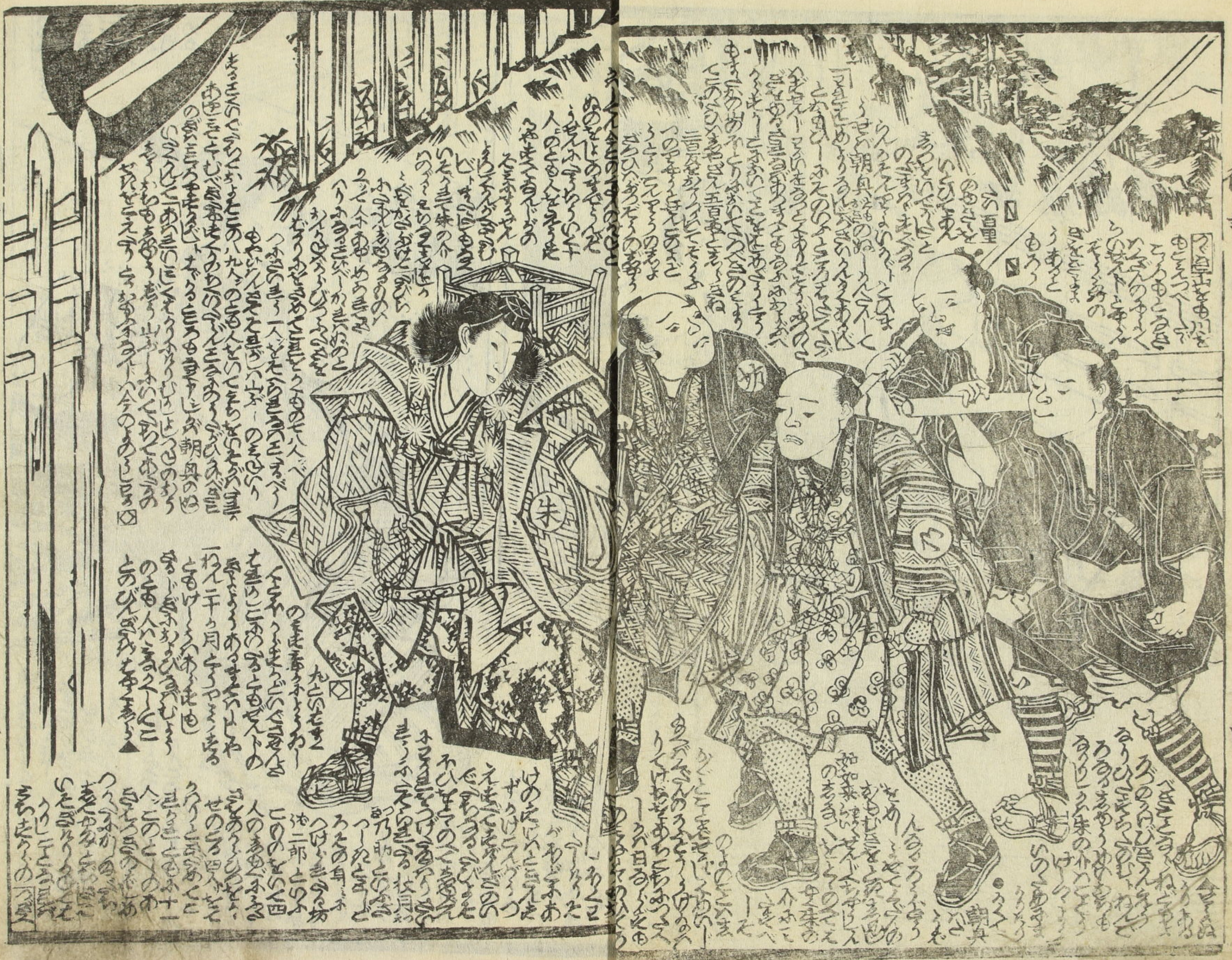
如來未菴の
 易食
 実ハ
 如來
 禪師



鷹捉山の射妖



末朱之介晴賢



Handwritten Japanese text in vertical columns, located above the main illustration. The text includes names and titles such as '権助' (Gonjū) and '朝倉' (Asakura).

Handwritten Japanese text in vertical columns, located below the main illustration. The text continues the narrative or provides commentary on the scene.

Handwritten text on the left margin, possibly a page number or chapter indicator.

Handwritten text on the left margin, possibly a page number or chapter indicator.

五月廿二日
の月
△

往
新
九



△おのち
の山
△おのち
の山
△おのち
の山

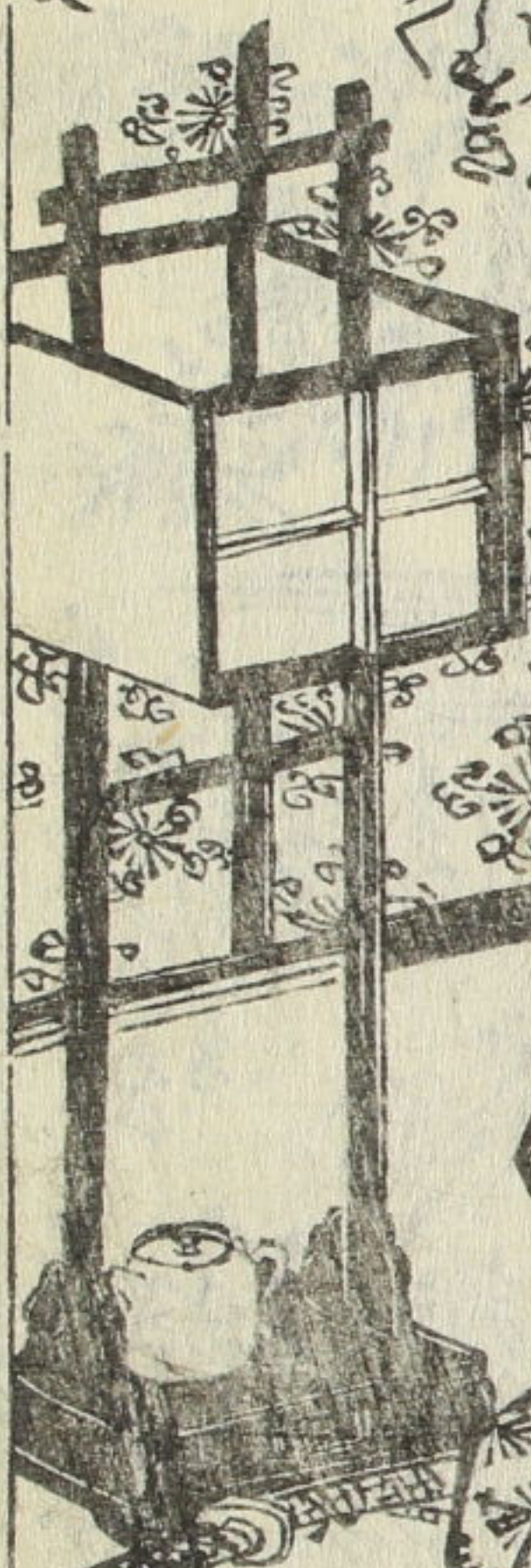


△おのち
の山
△おのち
の山
△おのち
の山

△おのち
の山
△おのち
の山
△おのち
の山

△おのち
の山
△おのち
の山
△おのち
の山

月乃助おとせうん
 しとあけりふ
 ろもさうさ
 月乃助おとせうん
 しとあけりふ
 ろもさうさ
 月乃助おとせうん
 しとあけりふ
 ろもさうさ



月乃助おとせうん
 しとあけりふ
 ろもさうさ
 月乃助おとせうん
 しとあけりふ
 ろもさうさ

卯酉

し



月乃助おとせうん
 しとあけりふ
 ろもさうさ

月乃助おとせうん
 しとあけりふ
 ろもさうさ

卯酉

御醫州



歌川國綱畫

十返舎九操鮪

本家 實母散

南傳馬町二丁目東側 千葉堂孝輔製
松方夫人さまくま中今 一切の抄中、

せんきのゆ糸

御用薬所 信州上田東山堂製

大日本國郡輿地全圖

六奉書 六枚巻

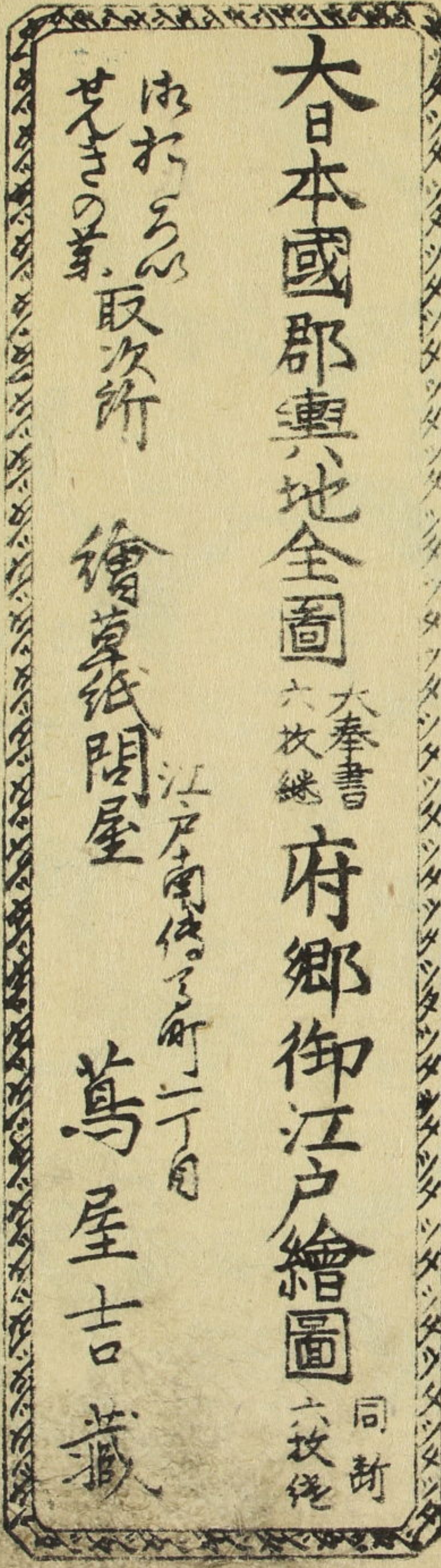
府郷御江戸繪圖

同新 六枚巻

おぼろゝの 取次所
せんきの葉

繪草紙問屋

萬屋吉藏





歌川國綱画

九編下





Vertical text block at the bottom of the illustration, likely a poem or commentary related to the scene.

甲九七

美

おん

九巻
下

一九録 四細画

南傳馬一

葛吉板



Handwritten text in vertical columns on the right page, likely a commentary or transcription related to the illustration.



Handwritten text in vertical columns on the left page, likely a commentary or transcription related to the illustration.

大抵此の世は其の一人にて...
此の世は其の一人にて...
此の世は其の一人にて...



此の世は其の一人にて...
此の世は其の一人にて...

此の世は其の一人にて...
此の世は其の一人にて...



此の世は其の一人にて...
此の世は其の一人にて...

ついでに... 山の上... 入りの口

あつち... 入りの口



朱の介... 朱の介... 朱の介... 朱の介...

①ま... 朱の介... 朱の介...



あつち... 入りの口

あつち... 入りの口

あつち... 入りの口

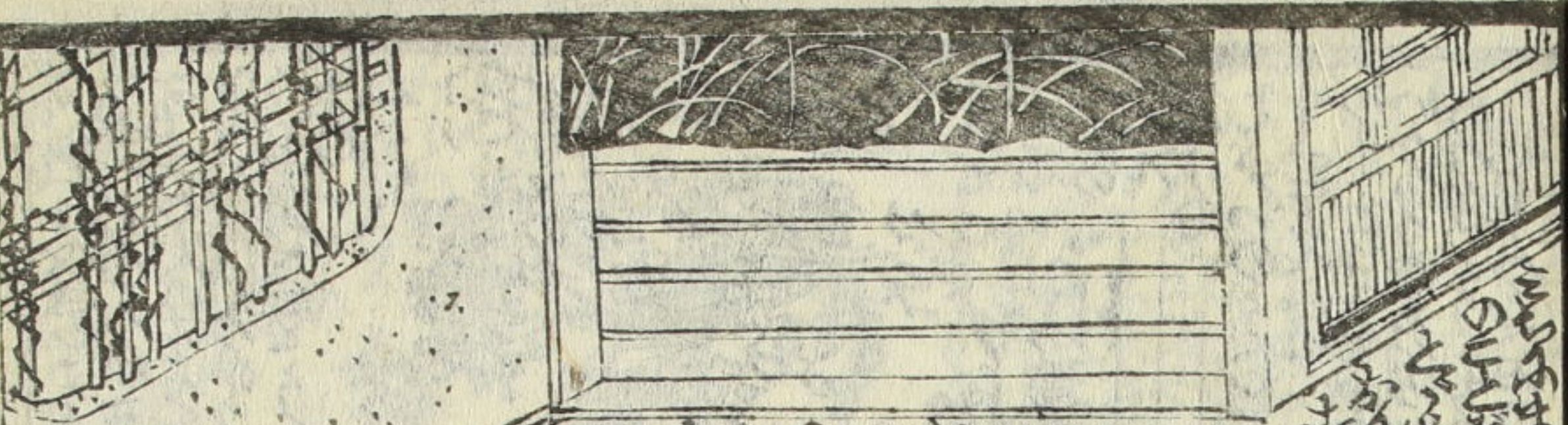




Handwritten text in vertical columns at the top of the right page, above the illustration of the two women. The text is in a cursive style.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the right page, below the illustration of the two women. The text continues the narrative.



Handwritten text in vertical columns along the left margin of the left page.

Handwritten text in vertical columns along the bottom left margin of the left page.



あはれ
おのれ
あはれ
おのれ
あはれ
おのれ

あはれ
おのれ
あはれ
おのれ
あはれ
おのれ
あはれ
おのれ

あはれ
おのれ
あはれ
おのれ
あはれ
おのれ
あはれ
おのれ



あはれ
おのれ
あはれ
おのれ
あはれ
おのれ
あはれ
おのれ

あはれ
おのれ
あはれ
おのれ
あはれ
おのれ
あはれ
おのれ

ついでに...
あつちの...
あつちの...
あつちの...

あつちの...
あつちの...
あつちの...
あつちの...



あつちの...
あつちの...
あつちの...

あつちの...
あつちの...
あつちの...
あつちの...



あつちの...
あつちの...
あつちの...

嘉永六年癸丑新春新編目録

十返舎元操航

歌川國綱畫



白笑茶
あけのぼり
香 一包四文
上 一袋 四十八文

右のまゝ
あけのぼり
あけのぼり
あけのぼり

大晦日曙草紙

十九編 京山作
九編 芳綱画

連理翅山維奇縁

三編 西馬譯
二編 芳綱画

八犬傳犬の紙

三編 仙果録
三編 豊国画
三編 國貞画

松浦船水掉婦言

初 仙果録
二 國芳画

御贄美少年始

八編 一九録
九編 國綱画

八重撫子東物語

初 仙果録
三 國貞画

俠客傳仙摸略記

八編 西馬譯
九編 國綱画
十編 國綱画

花養堂梅雅物語

初 西馬譯
三 國綱画

馬巡浪間朝祭

五編 種貞譯
六編 國綱画

春柳錦花皿

五編 一九録
大尾 芳綱画

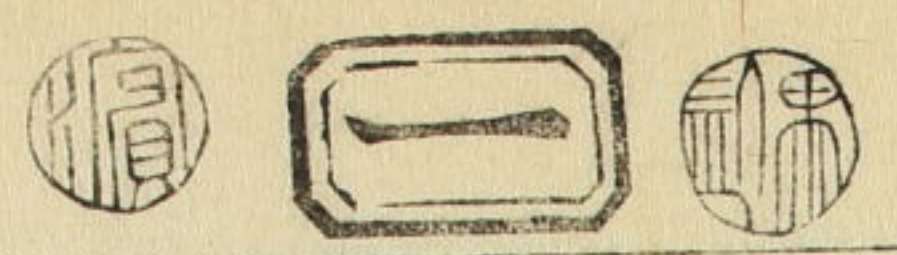
文正 壺屋古今草紙合

九編 仙果作
十編 國綱画

錦繪 地本問屋 萬屋吉藏板

東都南傳馬町二丁目



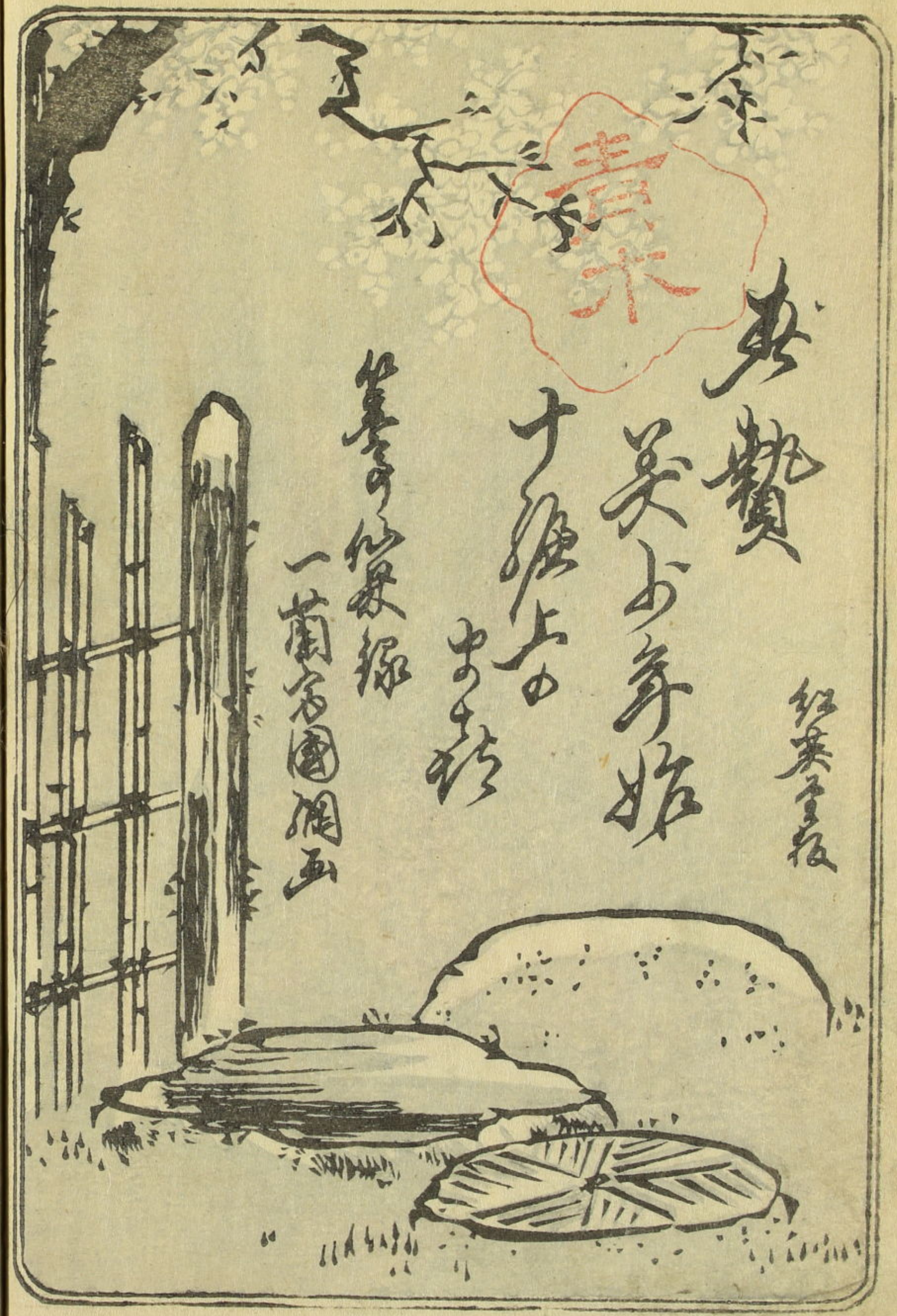
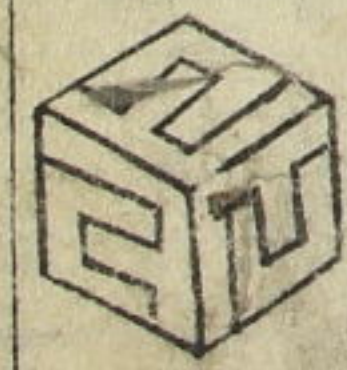


故十返舎一九の就木地遊遊一人の機嫌上戸の愛形もの満洒々美少年
 の頃より風を臨む善の緒折命と契る年弱女の數十人不及び一とを此面白く世を
 経て代り不惑とて今戸の土と化しと甚悲しと焼物の朝娘も涙を落
 せり。仙果の此人と女二の朋友ありれど石下戸の生野夫を厭ひあふねと
 所縁が為く面白くをえり。其が薬飲年兄早一九より三歳生延其
 作の嗣録も長壽和赤面申春より犬の草紙と押並く発市し
 善中橋の篤吉例缺てい々と主人の意これ多き抄録物の序をいへと水
 引つとて美女の續絃は三平二原本木を傍る末木をあげと櫻の後の牛車と
 まての厭ひを所一階と故人の寓せ墨田の水の下流を汲ぐは多川の井代
 地子毫を添るハ

甲寅孟春



笠亭仙果



其贊

美少年始

十返舎一九

あまのり

美少年始

一蘭名園洞画

紅葉重夜



福富長者
大夫次

巾着

富新
賊道人
騙事
十編
日高
景市の
物語
ふ名



打出

巾着
丁兒

有驗觀
室提



三月三日
曹統奉

わんつうの二ひりのあ
らちのひうなちあつ

のちの
まもあな
よとあや子
まなはりのひら

よりのあつ
うらひのあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ



小長子
あつあ

あつあ

あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ



あつあ

上市のの七

あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ

あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ

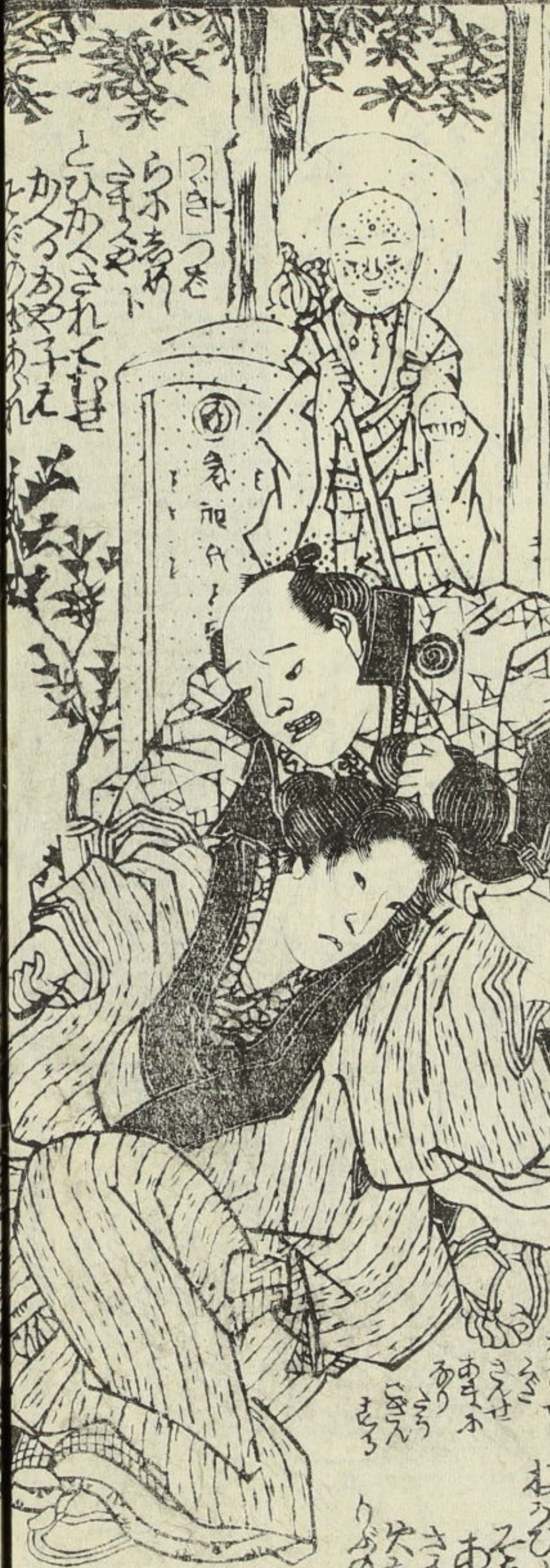
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ

あつあつあつあつ

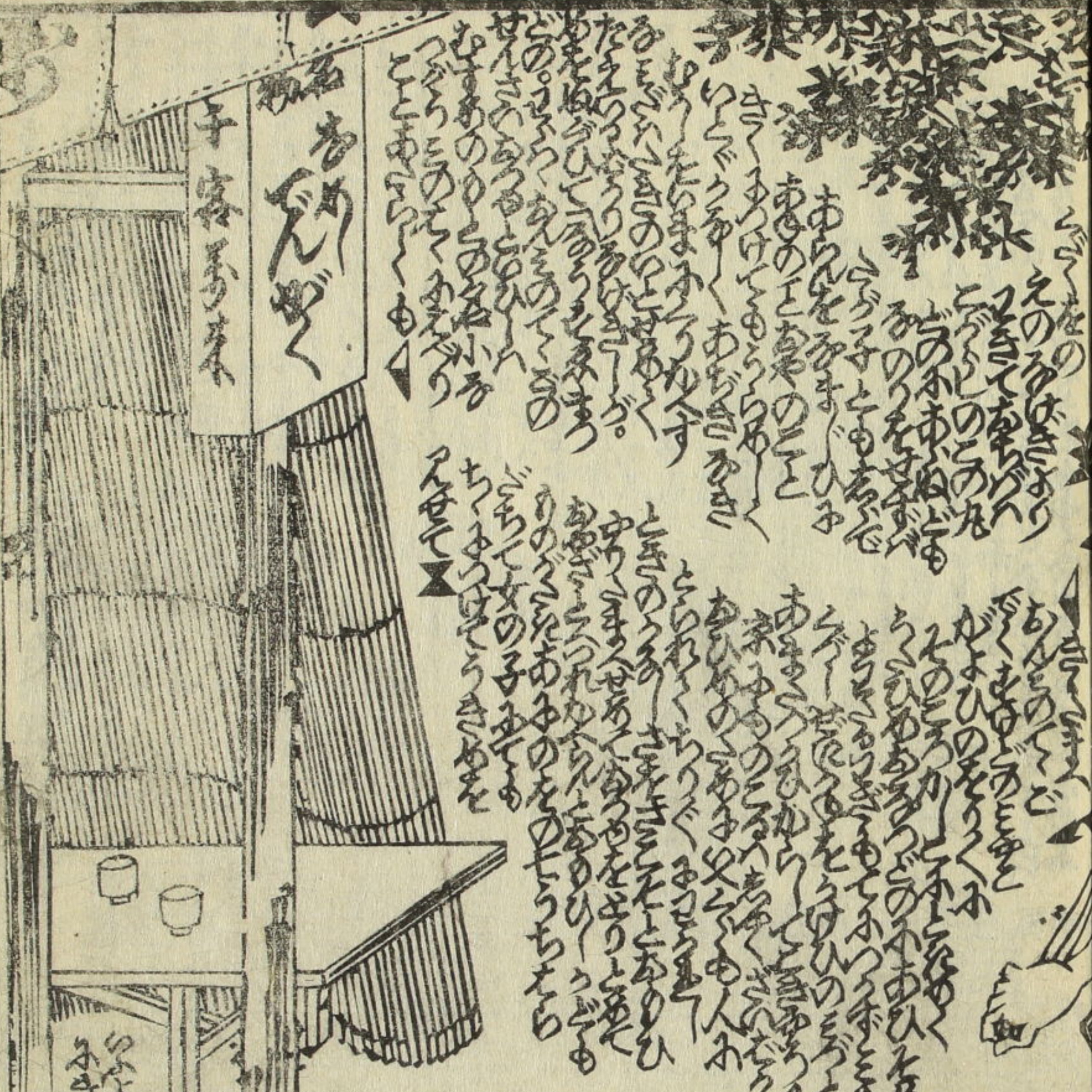
あつあ



あつひさきよつらりつふたかひ
みんないりしあふふとつらりつふたかひ
あつひさきよつらりつふたかひ
あつひさきよつらりつふたかひ
あつひさきよつらりつふたかひ



あつひさきよつらりつふたかひ
あつひさきよつらりつふたかひ
あつひさきよつらりつふたかひ
あつひさきよつらりつふたかひ
あつひさきよつらりつふたかひ



あつひさきよつらりつふたかひ
あつひさきよつらりつふたかひ
あつひさきよつらりつふたかひ
あつひさきよつらりつふたかひ
あつひさきよつらりつふたかひ

一筆其下仙果派
 一蘭齋國
 網画



此の巻の...
 一筆其下仙果派...
 一蘭齋國...
 網画...

本家 實母散

此方実母さん...
 信州上田東山堂製

見ええんご 中獨
 南傳馬町二百東側 十葉堂孝輔製衣

せんごのゆき

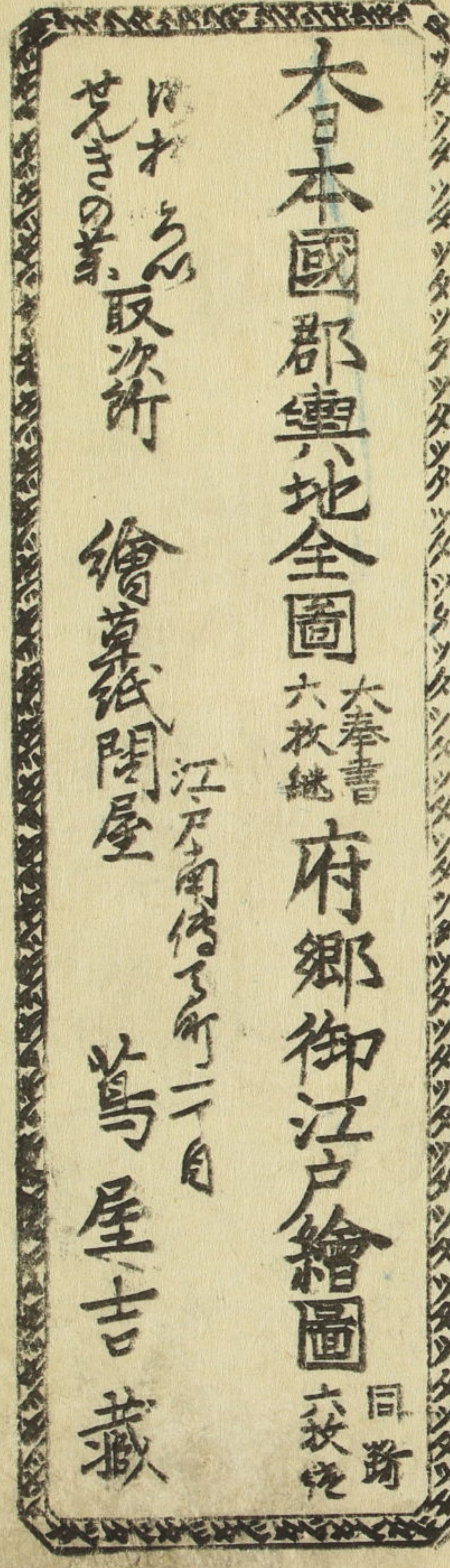
御用薬所 信州上田東山堂製

せんごのゆき...
 一包 四回

大日本國郡輿地全圖

大奉書 六枚紙
 府郷御江戸繪圖 六枚紙

取次所 繪紙問屋 鳥屋吉藏





子結下

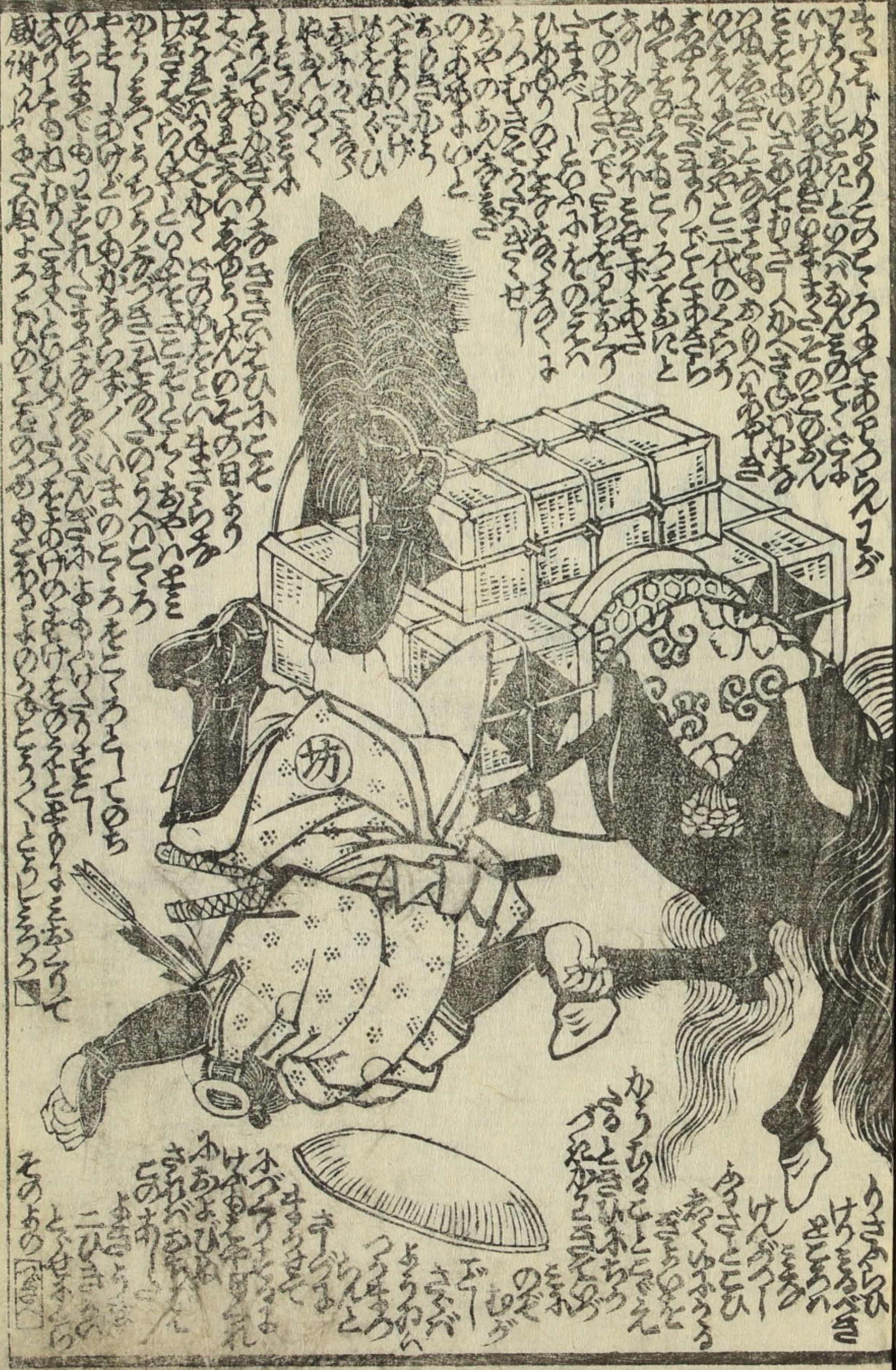


美少年台十

此の物語は、美少年の台十の
 一生の物語である。美少年は、
 幼少から音楽に才を発揮し、
 名手として知られるようになる。
 台十は、美少年の才能を賞賞し、
 彼を育てようとする。二人の間
 に、友情と愛情が育ち、美少年
 は台十の指導で、ますます音楽
 の道に進む。この物語は、才能
 と指導の大切さを説くものであ
 る。



美少年の台十
 下巻
 紅雲堂
 新川國太郎
 書



Vertical text on the far left margin.

Vertical text on the far left margin.

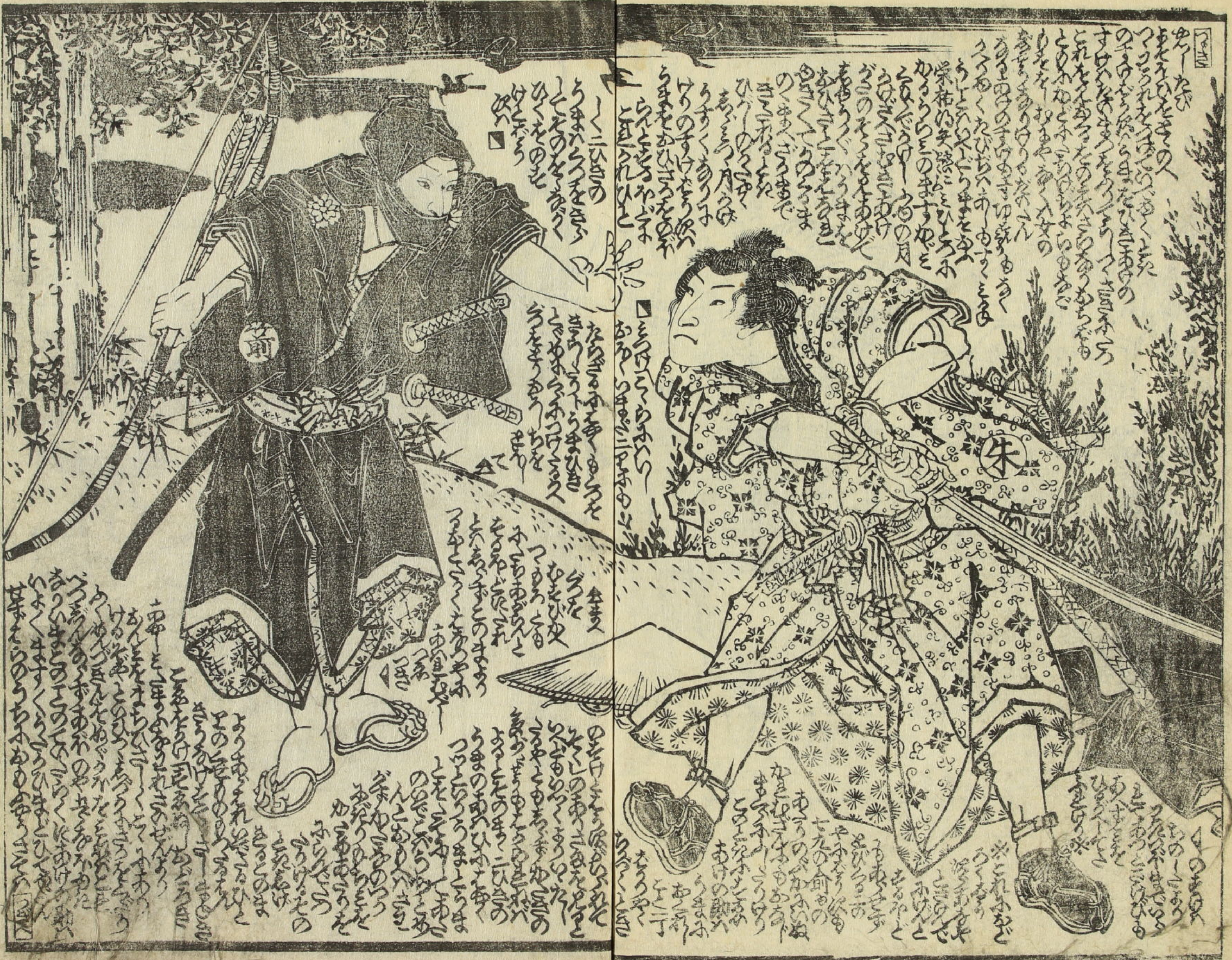


此の馬は美濃守の御用にて
 運送の物に仕立られたり
 故に其の重きに堪へず
 歩むるに苦しむる事多し
 又其の飼養も亦た
 容易ならず候事
 此の馬は美濃守の御用にて
 運送の物に仕立られたり
 故に其の重きに堪へず
 歩むるに苦しむる事多し
 又其の飼養も亦た
 容易ならず候事

此の馬は美濃守の御用にて
 運送の物に仕立られたり
 故に其の重きに堪へず
 歩むるに苦しむる事多し
 又其の飼養も亦た
 容易ならず候事
 此の馬は美濃守の御用にて
 運送の物に仕立られたり
 故に其の重きに堪へず
 歩むるに苦しむる事多し
 又其の飼養も亦た
 容易ならず候事

此の馬は美濃守の御用にて
 運送の物に仕立られたり
 故に其の重きに堪へず
 歩むるに苦しむる事多し
 又其の飼養も亦た
 容易ならず候事
 此の馬は美濃守の御用にて
 運送の物に仕立られたり
 故に其の重きに堪へず
 歩むるに苦しむる事多し
 又其の飼養も亦た
 容易ならず候事

此の馬は美濃守の御用にて
 運送の物に仕立られたり
 故に其の重きに堪へず
 歩むるに苦しむる事多し
 又其の飼養も亦た
 容易ならず候事
 此の馬は美濃守の御用にて
 運送の物に仕立られたり
 故に其の重きに堪へず
 歩むるに苦しむる事多し
 又其の飼養も亦た
 容易ならず候事



あーの
 まさの
 つつれ
 の
 すけ
 と
 の
 の
 の

あーの
 まさの
 つつれ
 の
 すけ
 と
 の
 の
 の

あーの
 まさの
 つつれ
 の
 すけ
 と
 の
 の
 の

あーの
 まさの
 つつれ
 の
 すけ
 と
 の
 の
 の

あーの
 まさの
 つつれ
 の
 すけ
 と
 の
 の
 の

あーの
 まさの
 つつれ
 の
 すけ
 と
 の
 の
 の

あーの
 まさの
 つつれ
 の
 すけ
 と
 の
 の
 の

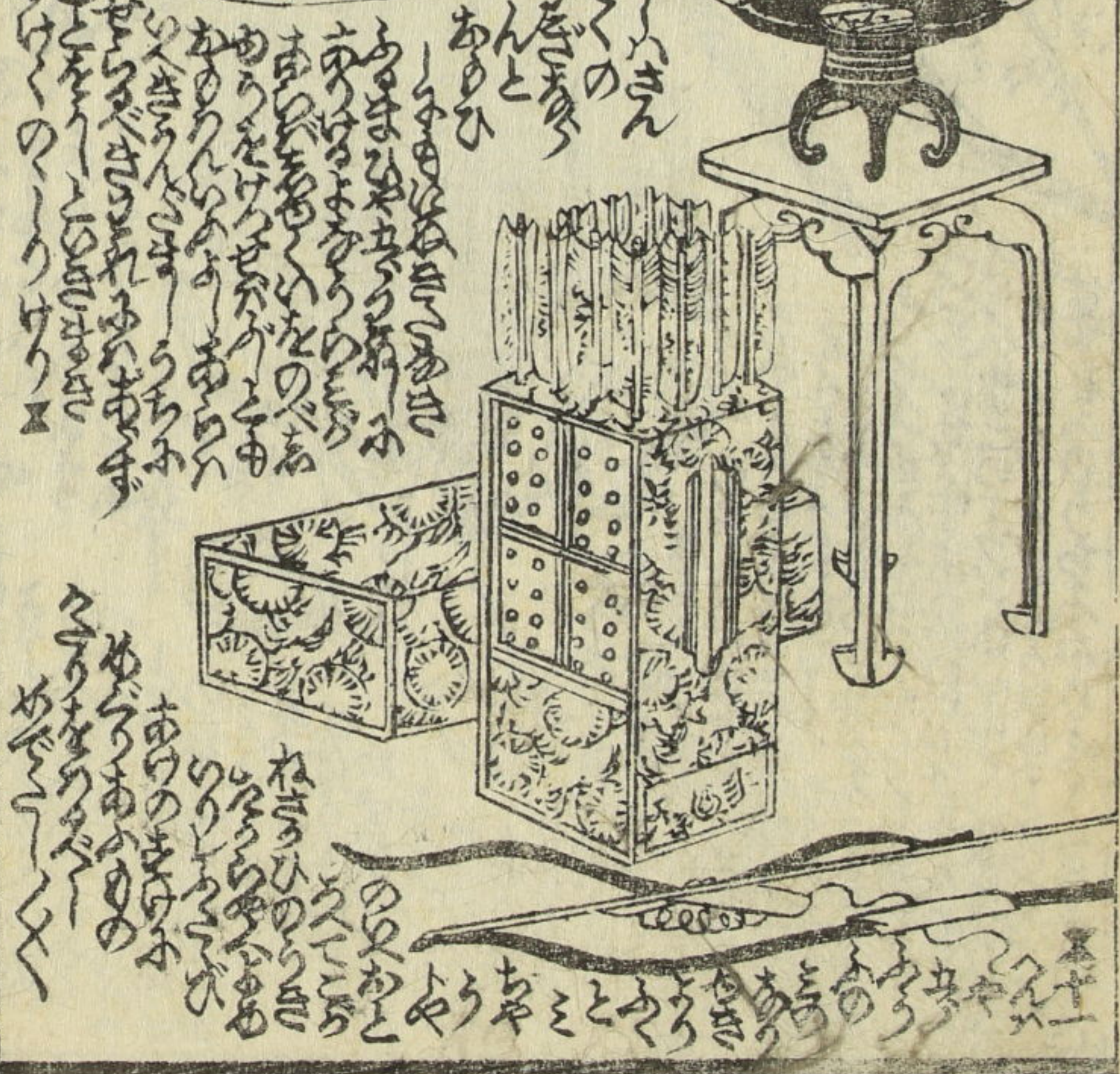
嘉永七甲寅新春新鐫目錄

大晦日曙草紙 九編 芳山作 芳細画
 八犬傳大島紙 廿編 仙果録 國貞画
 御贄美少年始 十編 同 録 國細画
 俠客傳小摸略説 十編 西馬譯 同 画
 鳴浪朝暴 六編 植貞譯 國貞画
 古今草紙合 十編 仙果作 國輝画

連理翅羅奇縁 六編 芳山作 芳細画
 松浦船水棹婦書 三編 仙果録 國芳画
 八重撫子果物語 二編 同 録 國貞画
 花菱笠梅雅物語 三編 西馬譯 國輝画
 小幡小半次物語 二編 初五瓶作 國貞画
 問屋蔦屋吉藏板



仙果録 國細画



美人の生一

二



笠亭仙果錄
一蘭齋國紙畫

著
贊

吳少
年始

十編

一蘭